

GU'DAY

群馬大学情報誌
[グッデイ]



vol.8

2009 • Spring



地域アカデミーの入学式



協定書を交わす右から鈴木守学長、清水聖義太田市長、吉川廣和DOWAホールディングス会長

「GU'DAY」は、「GOOD DAY」の表音(日常のあいさつ=こんにちは・さようなら)で、「地域とのふれあい・コミュニケーション」を示すとともに、「GU(Gunma University)のDAY(時代)」も意味します。

2 GU'DAY TALK

[鈴木一行氏に聞く]

専門性の追求と幅広い問題意識の喚起

4 CAMPUS WATCHING

学生寮探訪!

[養心寮・啓真寮・国際交流会館]

6 TOPICS

- 地域アカデミー初開講
- 1社1博士創出プロジェクトがスタート(工学部)
- 教育学部国際シンポジウム開催
- 社会情報学部が創設15周年

8 GUNDAI最先端

生体調節シグナルの統合的研究

高崎健康福祉大学と教育研究交流

10 ひらく・むすぶ・地域と大学

まちなかキャンパス

- 市街地再生を目指して
- 学生と一般向けの授業開催

DOWAホールディングスと協定

12 すばとと散策

情緒も自然もスケールも
日本一の温泉リゾート、草津
[草津セミナーハウス周辺]

13 大学遺産

山田太市の功績が偲ばれる
設計図面

14 あのときGUNDAI

教育学部の歴史—①前編
師範学校から学芸学部へ



まちなかキャンパスで講義する群馬大学の樋口剛管理栄養士(左)と瀨山士郎教授



海外から来た留学生たちと国際教育・研究センターの松元宏行教授(前列右)

GU'DAY

グッデイ・トーク／鈴木一行氏に聞く（聞き手／学長 鈴木 守）

TALK

グローバル企業 として成長

学長 サンデンはグローバル企業として知られています。が、国際性という観点からどんな会社なのか教えていただけ

けますか？

鈴木 自転車用発電ランプの製造でスタートし、冷蔵庫や洗濯機・モーターバイク・冷凍ショーケース・自動販売機・石油ストーブ等々さまざまな製品を開発してきまし

た。近年は、カーエアコン・コンプレッサーが主力商品ですね。現在、世界23カ国に53拠点を、海外に25工場を擁し、コンプレッサーのシェアは世界の25%です。全世界の従業員1万7000人中7割は外

国人ですよ。

学長 群馬という地方からスタートしてグローバル企業となったわけですが、ターニングポイントは何ですか？

鈴木 創業から30年は、いろいろな製品を国内中心に開発

した時期。次の30年は、系列企業の壁を打破するため海外シフトを強めた時期。そして今は、世界中でお客さんとコラボレートして価値を高めていく時代に突入したと考えています。数十年かけて培って、

専門性の追求と幅広い問題意識は車の両輪

✓きたサンデンの品質経営思想
サンデン・トータル・クオリティ・マネジメントをベースに、異なる人種・文化の人々を一つの旗の下に共に成長していこうというのが、目指しているものです。

互いに認め合う スタンス

学長 群馬大学がいま実施している多文化共生教育研究プロジェクトは、異なる風土・文化を持った人々が、どのように連携していくことができるのかを実践するもの。地域にサンデンのような国際企業があることは、とても心強い。

鈴木 グローバル社会では、



サンデン株式会社 代表取締役社長
鈴木 一行（すずき かずゆき）

【略歴】1944年群馬県生まれ。1968年群馬大学工学部電機工学科卒。同年、三共電器株式会社（現サンデン株式会社）入社。93年サンデン・インターナショナル・台湾社長、99年取締役製造本部長、2003年常務執行役員、サンデン・マニュファクチャリング・ヨーロッパ社長、06年取締役兼副社長執行役員、07年代表取締役社長、現在に至る。

聞き手 学長 鈴木 守

日本だけが単独で生きていくことはありえません。かつて私が赴任していた失業率20%のフランスを例にとってみましょう。雇用面を考慮して進

出に当たっては、立地、大学との共同研究等さまざまな便宜を図っていただきました。障壁を乗り越えるため、ギブ&テイクの関係で協力すること

ができたのです。現在、予想以上の実績を残すことができ、非常に高く評価しています。

学長 日仏双方のアイデンテ

イテイがうまく噛み合うことが重要ですよね。

鈴木 人種も考え方も文化もすべて違って、お互いに認め合うことが極めて重要。相互の文化・習慣・考え方を認めた上で、どうやったら成長していけるかを考える。サンデンの哲学だけはどうしても譲れないが、ほかはいじやないかというスタンスですね。

専門分野に留まらない キャリアづくりを

学長 学生時代の経験で、今の共生時代、社会で活躍する際に役立つことは？



鈴木 やり始めたこと、思いついたことはとことんやろうと思いましたが、自分自身が納得できるのももちろん、ほかのことも見えてくる。その中でいろいろなチャンスが平等に生まれてくる。私はその中で、たまたま社長をやっているわけです。学生でも社会人でも一つのことをやり切ることも重要だと思います。

学長 工学部では電機専攻でしたね。
鈴木 勉強があまり好きではなかったことが、幸いした部分があります。技術以外のことをいろいろな経験でできました。とはいえ、文科系よりは理論的なことも分かりますか

ら、それをベースにして幅広く仕事をやらせてもらったのが良かった。一つの会社を任せられる海外では、経営を含めて人事・採用・技術などトータルで責任を持つ。見様見まねの経営を経験できました。それが私にとってプラスになっているのかなと思う。優秀だったら、多分いまごろ技術屋さんで、社長になっていたなんてことはなかったでしょうね。

学長 オタクではなく、いろいろなことを経験したということですね。
鈴木 学生ですから専門分野を極めるのは当然ですが、できるだけ幅広く情報をキャッチする方がいい。問題意識を高め自主性を喚起していくことが大事。企業としては、自主性がない人には期待が薄れてしまいます。

学長 指示を待たずにきちっとできる能力ですね。
鈴木 大学生が会社に入る場合、専門性を期待されます。実は会社に入ると、大学の



専門性が直接生かされる期間は、最初の1、2年だけで、後はほとんど全然違う分野へ移ることが多いんですね。だから専門性をとことん追求したという自信があれば、違う分野に移ったとしても生かせる。電機だけ機械だけ、なんてことはないんですね。

群馬大学OB 300人

学長 地方大学統廃合論もある中、群馬大学の役割についてお考えをお聞かせください。

鈴木 当社には群馬大学の卒業生が300人。サンデンの成長があるのは、群馬大学出身者が力を発揮してくれているから。地域は地域の特徴の中で大学の進むべき方向があるような気がするんですね。地方の企業が群馬大学に期待していることは、継続的に、優秀で自主性のある人材、専門分野で優れている人材、グローバル視点の人材を育てていただくこと。社会への還元、貢献というサイクルが非常に大事だと思うんですね。やはり地元の大学と企業の間で交流があって、お互いに成長していくという価値観が非常に大切です。これからもぜひ、群馬大と緊密な関係を築いていきたいと思えますね。

学長 まよこ「Act locally, think globally」。地域の連携から理念を見つけ出し、未来を創生していく。そんなイメージですね。今日はありがとうございました。

学生寮探訪!

どんな暮らしが待っているのだろう

[養心寮・啓真寮・国際交流会館]

全国から学生が集まる群馬大学。自宅通学できない学生は、下宿もしくは寮生活をすることになります。前橋に養心寮、桐生に啓真寮があり、留学生向けに用意されているのが、前橋・桐生両地区にある国際交流会館です。どんな部屋で、どんな暮らしを送っているのか、のぞいてみましょう。

●養心寮

昭和キャンパスにほど近く、市街地や大型商業施設も近隣にある養心寮。定員は139人(男子77人、女子62人)と、かなり大所帯にもかかわらず、ほぼ満室で定員を大幅に上回る入寮希望者があるほどの人気があります。寄宿費が月4200円(水道・光熱費込みで1万円!)と聞けば納得です。

寮を案内してくれたのは、2008年



養心寮の部屋

度前期の寮長を務めた清水恭平君(岩手県出身・社会情報学部3年)。部屋はすべて個室



「将来は地元で自治体に就職したい」という前寮長の清水恭平君

で、1ルーム6畳。荷物置場として使えるロフトと温風ヒーターは最初から付いています。寮生たちは、自分の部屋を思い思いに个性的に(?)楽しんでるようです。共用スペースとしては、談話室や風呂、各階に補食室と呼ばれるキッチンなど。寮生活の楽しみの一つは、年間通して行われるイベント。「7月の七夕祭と、12月の寮祭は毎週末にスポーツ大会やダンスパーティー、地域住民を招いての交流など盛りだくさん。授業、バイト、サークル活動などの合間を縫って準備に励みます。寮祭での神輿がクライマックス」と清水君。



養心寮の補食室。食費を抑えるため、自炊派の学生も多い

また、新寮生たちは4月、先輩方の部屋を回って、恒例の自己紹介。そこで、

数々の課題(?)が出されるそうです。清水君の場合は、「軽井沢まで自転車で行ってこい」というものとか。仕方なく5、6人で実行すると「一気に仲よくなれた」そうです。

風呂掃除やごみ当番など決められたルールを守ってれば、特に問題なく寮生活を送れるようです。もちろん、男子と女子は棟が別になっていて、入り口のセキュリティも万全。1年時は自転車通学、それ以降は自動車に通う学生も多いとか。寮生活の様子は、寮の公式ホームページ

(<http://www8.tok2.com/home/yoshinryo>)へどうぞ。

●啓真寮

「アパート暮らしでは味わえない人間関係を構築できるのが寮生活の何よりの魅力ではないでしょうか」と語るのは、寮長の岡美穂君(栃木県出身・工学部3年)です。

「人と人とのつながりをおして、自分を見つめ直す。人間としても成長できますよ」

4月の新歓、12月の寮祭ははじめ年間通じて行事が



築40年ほどになる啓真寮。入り口は国際交流会館と共通



1年生の時は養心寮に入寮していたという、現在啓真寮長の岡美穂君

たくさん行われるのは養心寮と同じ。それぞれの責任者を決め、話し合いを重ね、準備を進めるそうです。そうやって寮生たちは濃密な時間を過ごし、かけがえない友人関係を築いていきます。ともすれば研究室に閉じこもりつきりになりがちな工学部生にとって寮生活は、またとないコミュニケーション鍛錬の場でもあるようです。養心寮よりも寮生たちのノリは激しい(?) ようです。

部屋は、養心寮よりも広く1ルームが10畳近い。冬は、特に北側の部屋では寒く、暖房やカーペット類など防寒対策が必須ですが、岡君曰く「住めば都」。寮費は5900円(光熱費は別途)。養心寮同様に補食室は各階にあり、風呂は共用で、桐生キャンパスへ徒歩通学できる距離にあります。

現在寮生は約40人とまだ余裕があります。男子のみを対象としています。また、建物には国際交流会館が併設され、入居期限の1年間

が過ぎた後は啓真寮に入寮する留学生も少なくありません。

啓真寮の歴史は古く、工学部が発足した1916年にまでさかのぼります。当初は全寮制で、現在も発刊されている寮誌「啓真」が創刊されたのは、なんと1938年！ 創立当初から自治の伝統が根づいているのです。当初、学内にあった寮が現在地に移転したのは、1969年のことでした。

国際交流会館

前橋市国領町にある国際交流会館は、外国人留学生と研究者向けの宿舎です。全23室のワンルームタイプで中庭のあるスタイリッシュなレイアウトです。各部屋には、シングルベッド、デスク、いす、本棚、エアコン、1日キッチン、食器棚、冷蔵庫、ユニットバス・トイレ、洋服ダンス、げた箱、電気スタンド、電話などが装備され、留学生は体一つで留学生生活をスタートすることができます。

ここで暮らす留学生の出身国は、韓国、台湾、中国、モンゴル、ニカラグア、パングラデシュ、カナダなど多様。半年または1年の短期の交換留学生(台湾・台北教育大、韓国・嶺南大など)が利用しています。

そこに暮らす留学生の感想は「いろいろな国の料理が楽しめて面白い。作った料理をみんなで食べ比べる」「共用の談話室では、日本人学生も呼んでパーティーをやることも」「他国の人たちと交流を深める大切な場所」などなどで、文化交流

を思い思いに楽しんでいる様子です。

自国ですでに日常会話には不便しないレベルの日本語力を身に付けていて、日本人学生と一緒に授業に参加。日本人学生によるチューター制度も利用して日本語にみぎをかけています。

印象深かった授業は、国際教育・研究センターと教育学部が共同で行った日本研究「武道・芸術」実践プログラム(半期15回シリーズ)の講義で、三味線やお琴、日本画などを実践し、最後は発表会で締めくくりました。

留学生たちの中には、将来、日本企業や日本企業と取引のある企業に就職を考える学生も多いそう。

ところで、国際交流会館は家賃も格安で、設備も充実しているため競争率は高い。入居は1年間限定となっています。



台湾出身の留学生・賴 滄情(ライジュンチェン)さん



国際交流会館



地域アカデミーの卒業式

地域アカデミーを初開講

群馬を学ぶ

地域アカデミーとは、各地域の大学が主催となり、大学の研究成果や地域の文化・伝統、自然、産業などを題材とした講義を行う短期滞在型の生涯学習プログラムです。2008年度は、大学のほかに秋田大、宮城大、関西大、山梨大(5大学合同)、長崎大(2大学合同)で開催されました。本学では、(株)JTBと連携して10月27～31日の日程で初めて開講されました。群馬大の大きな特色となったのは、世界でも画期的な「切らずにがんを治す」重粒子線照射施設

が完成間近であることから、この最先端医療に関する講義と施設見学が組み込まれている点です。

ほかに「近代日本を支えた群馬の絹と鉄」「東洋のボンペイを訪ねて」「幕末を旅した男」「近世上州の和算文化」「温泉を科学する」「織物の街桐生の今昔」「桐生織物手織り体験学習」「ミクロ、ナノの世界を探る」「生活習慣病と再生医療」など。5日間にわたって12の講義とフィールドワークが行われました。

講師を務めたのは、鈴木学長ら本学教員と地域の専門家。鈴木学長は「がんを外来で治す時代がやってきた」で重粒子線治療について講義しました。来年度も参加して照射施設の稼働状況を見たいという受講生もいたようです。

今回のアカデミーには、沖縄県・岡山県・大阪府・静岡県・神奈川県・群馬県と広域から7人が参加。最高齢は91歳！受講生間でも活発な交流が行われました。物見遊山型から新しい観光の在り方が模索される中、学びと旅をミックスした地域アカデミーは今後、大きく注目されるのではないでしょう。

1社1博士創出プロジェクトがスタート

生産システム工学専攻の夜間大学院新設

中小・中堅企業に少なくとも一人以上の博士を創出しようという、本学工学研究科の「1社1博士創出プロジェクト」が、文部科学省「専門職大学院等における高度専門職業人養成推進プログラム」に採択されました。これを受けて2009年4月、大学院工学研究科生産システム工学専攻(博士前後期課程)対象の夜間主コース「共同研究活用型ものづくりリーダー育成コース」を開設します。

2007年度に開講した工学部唯一の生産システム工学夜間主コースでは約6割ほどが社会人。地域の社会人にとって今まで以上に大学院進学が容易になるもので、初年度の受講生は3人。

新設コースでは、企業ニーズに基づいた共同研究を通して、専門を異にする複数教員の集団指導により社会人学生に学位を授与しています。事業を推進する工

学研究科の黒田真一教授は「具体的な事業化を念頭に置いてテーマを選べますから、実際の業務に直結できるのがプログラムの特徴です」と述べています。

従来の単なる技術者育成に留まっていたものづくり人材育成では達成できなかった高度な専門知識と高い研究能力を身に付けた新技術・新産業を創出できる独創的で国際的な研究者・技術者の育成が大きな目的となります。

事業には前橋工科大や足利工大も連携し、単位互換制度も既に昨年10月から実施中です。今後は、国際交流や国際シンポジウムの開催も予定しています。実験計画・方法など研究ノウハウを学び直すことは、企業人にとって重要であり、厳しい経済状況にある今だからこそ、人材育成のチャンスではないでしょうか。



「今後は専門性が求められる高校教員などにも幅広くプロジェクトの告知を図っていく」と語る黒田真一教授



基調講演を行うオーストラリア・ディーキン大学のダイアン・メイヤー教授

あいさつをする白井副学長(右)と小池教育学研究科長



置されています。本学の「教職リーダー専攻」はその一つ。教育達成度の国際的な通用性が問われる昨今、高い資質を備えた教員養成は各国に共通した課題となっ

ています。また、松田直教育学部教授をコーディネーターに、木原成一郎・広島大学大学院教育学研究科教授、中留武昭・鹿児島県立短期大学長、何義麟・国立台北教育大学副教授、南景熙・国立ソウル教育大学教授、山崎雄介・教育学研究科准教授、清水和夫・教育学研究科教授らの研究報告、メイヤー教授も加わった意見交換が行われました。

他大学教員、教育委員会職員、教育学部教員、院生ら約90人が参加し、シンポジウムの後には、レセプションも行われました。



活発な意見が交わされたパネルディスカッション

国際シンポジウムを開催

大学院教育学研究科は、専門職学位課程教職リーダー専攻の開設を記念して国際シンポジウム「大学院における教員の資質向上とスキルリーダー」を、10月25日前橋市内で開催しました。

基調講演は、オーストラリア・ディーキン大学のダイアン・メイヤー教授による「教員養成のための専門職プログラムの最新動向」。同教授によれば、「大学院での教員養成は顕著な利点を有している。修士課程での教員養成プログラムは、教職に就いて間もなくリーダー的地位につく専門職を養成するのに大変有効であると考えられる」という。

また、松田直教育学部教授をコーディネーターに、木原成一郎・広島大学大学院教育学研究科教授、中留武昭・鹿児島県立短期大学長、何義麟・国立台北教育大学副教授、南景熙・国立ソウル教育大学教授、山崎雄介・教育学研究科准教授、清水和夫・教育学研究科教授らの研究報告、メイヤー教授も加わった意見交換が行われました。

シンポジウムは、「ネットは日本社会をどう変えたか」をテーマに、過去15年間、日本の高度情報社会が経験した変化を、人間関係の側面からとらえ直そうと企画したもの。メディア論、歴史情報論、社会学の各専門分野から現在の日本社会の姿に迫りました。

大学院における教員の資質向上とスキルリーダー

研究センター設置と記念シンポジウム開催 社会情報学部が創設15周年

創設15周年を迎える社会情報学部は、10月1日、学部付属の社会情報学研究所センターを設置するとともに、10月4日には記念式典・シンポジウムを開催しました。

シンポジウムは、「ネットは日本社会をどう変えたか」をテーマに、過去15年間、日本の高度情報社会が経験した変化を、人間関係の側面からとらえ直そうと企画したもの。メディア論、歴史情報論、社会学の各専門分野から現在の日本社会の姿に迫りました。

基調講演は、「青少年メディア研究協会」を主宰する下田博次特任教授による「携帯インターネットは日本の子ども社会をどう変えたか」。ネット社会の急速な進展による子育て環境の悪化や親による管理・支援の重要性などが主張されました。

続いて行われたパネルディスカッションでは、落合延高・社会情報学部長による「世間」と日本社会」、筒井淳也・立命館大学産業社会学部准教授による「ネットワークと親密性」とい

グローバルCOEプログラム 「生体調節シグナルの統合的研究」

群馬大と秋田大の連携

GUNDAI
最先端

世界最高水準の研究拠点づくりを支援する文部科学省のグローバルCOEプログラムに、本学と秋田大学が連携して申請した「生体調節シグナルの統合的研究」が、2007年度からの事業として採択されました。両大学が得意とする生体情報の受容伝達に関する研究を推進して、世界的拠点を形成しようという連携研究の試みを紹介しましょう。

COE (center of excellence) とは「卓越した研究拠点」とのこと。

COE生き残りをかけた連携

グローバルCOEプログラムの前身となったのが2002年度から始まった21世紀COEプログラム。群馬大、秋田大ともに単独で採択され、生命科学分野でA評価を受けていました。

「ところが、今回のグローバルCOEでは、一大学当たりの支援を厚くするため、採択大学の数を半減させることが決まっていたのです。前回の21世紀COEプログラムが全28大学ですから、半減すれば13〜14大学。総合力に勝る旧帝大をはじめとする有名大だけで占められてしまうのでは?と、生体調節研究所としては大きな危機感を抱いていました」と語るのは、リーダーである生体調節研究所の小島至教授です。

そこで、ともに前回評価が高かった地

方大学の本学と秋田大が連携を模索しました。しかも両大学の研究テーマは似ているが、双方が得意とするジャンルを詳しく見ると、群馬大は内分泌系と神経系、秋田大は免疫系の研究。うまく領域を補い合うことが可能だったのです。また、以前から本学と秋田大は共同研究した実績もあり、研究者同士、気心の知れた間柄でもあり、共同のプロジェクトがスタートしました。両大学の連携を推進した小島教授によれば「うまい組み合わせだった」とのこと。

53大学中13大学の狭き門を突破

生命活動の調節は、生体の3大調節系である、神経系、内分泌系、免疫系で行われています。これらが相互に密接なつながりをもつて、生体内の恒常性維持というダイナミックな生命活動が行われます。しかし、従来は各系の枠組みを超えた統合的な研究は十分ではありませんでした。

本学と秋田大の連携研究では、神経系・内分泌系・免疫系を網羅する生体調節シグナルに関する研究を推進し、さらに生体シグナル伝達の異常に基づく多くの疾患が発症する機構を解明し、予防・治療戦略を構築しようという意図したものです。

こうした先駆的なプログラム「生体調節シグナルの統合的研究」は、07年に申請し、国公立大合わせて53大学の申

請件数に對して、採択13大学という狭き門を見事に突破することができました。

現在、プロジェクトのメンバーは、群馬大13

人、秋田大6人。ともに最強といわれるメンバーを結集し、研究が進められているところです。また、採択が決まった07年以来、両大学では年間4〜5回の合同シンポジウムを開催するなど情報と研究者の交流も盛んに行われています。

大学院教育の充実と。ホスドクのキャリアアップ支援

一方、グローバルCOEプログラムの大きな目標の一つが、大学院教育の強化です。

両大学では、大学院生の単位互換や博士論文の審査でも交流を行うなど、教育カリキュラムの共通化を始めています。お互いのノウハウを生かし合うことで、共同研究のメリットを教育にも積極的に取り入れるのです。

また、前回の21世紀COEプログラム



秋田大と群馬大による合同シンポジウム

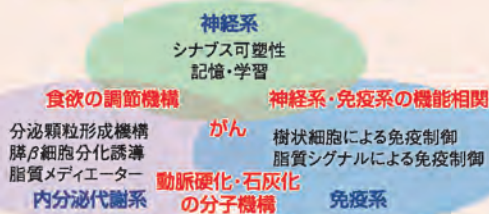
最先

時代から「ポストドク(博士研究員)」のキャリアアップには力を注ぎ、実績も挙げてきました。

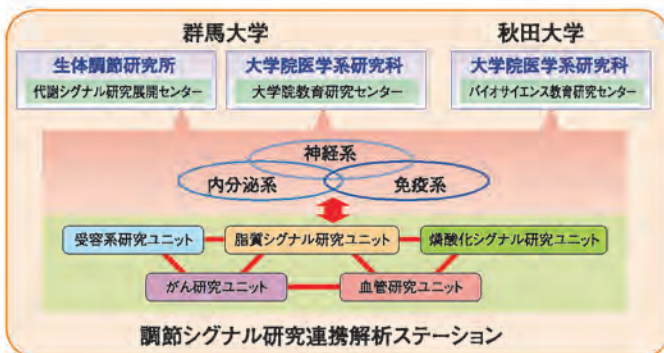
現在、日本では、雇用期間を過ぎてもなかなかポストが見つからず、同一機関にとどまりキャリアアップできないポストドクの多いことが大きな問題の一つです。

グローバルCOEでは、2〜5年というポスト期間の中で、他研究機関で准教授などにステップアップできるような若手研究者のプロモーション活動にも力点を置いていきます。ポストドクのキャリアアップによって、さらに次の若手研究者にもチャンスが増えていくというわけです。

生体の3大調節系の統合的研究



- * 神経系・内分泌系・免疫系の制御機構の研究
- * 各調節系の枠組みを超えた調節機構の研究、とくに病態研究
- * 3大調節系に共通するシグナル伝達機構の研究



大学の枠組みを超えた組織「調節シグナル連携解析ステーション」を設置し、拠点におけるすべての教育・研究活動をここで集約する。

「生体調節シグナルの統合的研究」の研究一覧

- 小島 至 (拠点リーダー) / 分化誘導因子の作用機構
- 森 昌朋 / 肥満内分泌代謝に関わる調節因子の研究
- 的崎 尚 / 生体制御におけるチロシン磷酸化シグナルの研究
- 泉 哲郎 / 分泌顆粒の開口放出機構
- 北村 忠弘 / 2型糖尿病の成因に関わる転写調節機構の解明
- 平井 宏和 / 神経細胞の成熟を制御するシグナル伝達機構の解明
- 竹内 利行 / 細胞内コレステロール輸送と内分泌顆粒形成機構
- 岡島 史和 / リソ脂質受容体ファミリーの機能解析
- 原田 彰宏 / 神経、内分泌細胞の細胞内輸送と極性形成機構
- 山下 孝之 / 複製ストレスシグナルと細胞の老化機構
- 城所 良明 / 神経筋シナプスにおけるシグナル伝達の解析
- 和泉 孝志 / 生理活性脂質の代謝と受容体機能の解析
- 倉林 正彦 / 動脈硬化の成因の解明
- 以上、群馬大学生体調節研究所および群馬大学大学院医学系研究所所属
- 榑木 俊聡 (拠点リーダー) / 樹状細胞による免疫調節ダイナミズムの解明
- 鈴木 聡 / 癌抑制遺伝子による生体制御
- 佐々木雄彦 / 脂質代謝酵素の生理機能解析
- 山田祐一郎 / 消化管因子による代謝調節機構の解析
- 澤田 賢一 / 樹状細胞による造血制御と免疫制御機構
- 羽瀨 友則 / 前立腺癌、膀胱癌の進展の細胞内外の分子構造の解析
- 以上、秋田大学大学院医学研究科所属

高崎健康福祉大学と教育研究交流へ―協定締結

群馬大学は、相互の教育研究交流を通じて、学部・大学院教育を円滑に進め、一層の充実を図るために、高崎健康福祉大と2008年10月15日に協定を締結しました。

本学で行われた協定調印式では鈴木守学長と高崎健康福祉大学の須藤賢一学長が協定書に署名しました。協定書の内容は、

- (1) 学生の交流
- (2) 教職員の交流
- (3) 単位互換
- (4) 教育研究についての情報交換
- (5) その他、両大学が協議し、合意した事項となっております。

現在、国公立大学間の連携が積極的に進められています。各大学における教育研究資源を有効活用することで、地域の拠点として教育・研究水準を高度化し、個性を際立たせ、大学運営の基盤を盤石なものにすることが求められています。



協定書を交わす群馬大学の鈴木守学長(左)と高崎健康福祉大学の須藤賢一学長

まちなかキャンパス

—「まえばし医療都市構想」を実現し、街ににぎわいを取り戻せ!—

市街地再生を 目指して

前橋市の街中からにぎわいが消えて久しい。本学をはじめ街中から移転してしまった高校も数多くあります。若者たちが街中から姿を消す一方、相次いで郊外に進出する大型店の影響も大きく、いま中心市街地は危機的状況にあります。

こうした中、群馬大学、前橋工科大学、前橋商工会議所は2006年2月、医学・工学の両分野にまたがる研究や街づくりで共同で取り組む協定を締結し、それにもとづき「まちなかキャンパス構想」と「健康医療都市構想」を2本柱とする事業展開を中心市街地再生への起爆剤として行ってきました。

さらに2008年度には前橋商工会議所が提案した「まえばし健康医療都市構想実現化プロジェクト」が国の「地方の元気再生事業」に採択されましたが、その中で09年度から治療が始まる本学の重粒子線照射施設と医学研究は、重要な役割を担います。この事業は、地域医療ネットワーク

クを確立し、市民や学生、研究者、観光客、治療で訪れる人々らが一体となって学び、交流することで市街地に新たな人の流れを創出しようというプロジェクトです。その中でも「まちなかキャンパス」はメデイカルツーリズムや各種シンポジウム開催とともに大きな柱の一つと位置づけられています。

若者が街中に集まる 仕組みづくり

次に2006年度から始まった「まちなかキャンパス」について見てみましょう。

「まちなかキャンパス構想」は、地域の大学や専門学校の教育拠点を中心市街地に移すことにより、「若者が集う場」を築き、市街地再生の核とする構想です。

中心市街地に若者が集うことによって「街のにぎわい」が生まれやがてさまざまな世代の人々を惹きつけるようになります。多様なビジネスチャンスが期待されます。「まちなかキャンパス構想」をイメージすると、「あらゆる世代の学びと交流の場」「健康で

安心して暮らせる街の象徴」となるでしょう。

具体的には、中心市街地で、本学はじめ前橋工科大、県民健康科学大、県立女子大や専門学校などの授業や公開講座・シンポジウム・子ども科学教室などを実施し、子どもから高齢者までが学び、語り、楽しむ、日常的にたくさんの人々が中心市街地に集まり回遊できる仕組みづくりがポイントです。

また、「まちなかキャンパス構想」事業の一環として、本学の社会情報学部では、商工会議所から委託を受け、市内・近郊の5大学、12専門学校に対しアンケート調査を実施しました。「中心市街地を訪れたことのない」学生が66%!というのは驚くべき数字ですが、「街中の授業を受けたい」68%は、希望を感じさせるものです。

学生向けと一般向けの 授業を開催

本学の教員も毎年、数多くの講義を開いてきました。

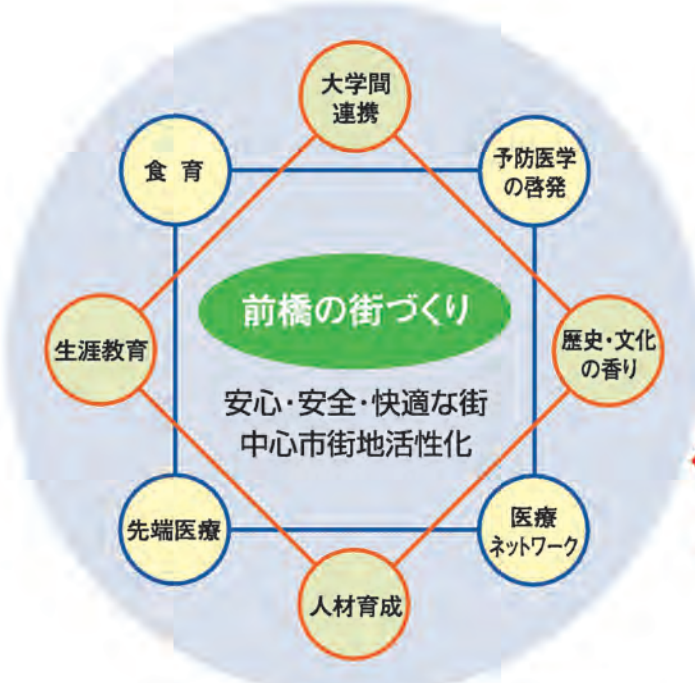
生体調節研究所や医学部の教員らによる8回シリーズの

講義「群馬に多い病気」は、群馬大学地域連携推進室出版のブックレット①「群馬に多い病気」をテキストにして、糖尿病・高血圧・動脈硬化・がん等の生活習慣病について、症状・検査・予防・最新の治療などについて解説するもの。「生活習慣病とは?」から始まって、「糖尿病とメタボリックシンドローム」「目からウロコの食事の話」「みなかみ紀行からみる牧場の生活習慣」「再生医療と新薬開発」など硬軟織り交ぜ興味深いラインナップの講義と評判であり、「まえばし健康医療都市構想」にふさわしい内容でした。

一方、教育学部の瀬山士郎



空中コマづくりの講義



まえばし健康医療都市構想

- まちなかキャンパス構想
- 健康医療都市構想

科学技術と地域文化
振興のため連携協定



**群馬大学
前橋工科大学
前橋商工会議所**

DOWAホールディングスと包括的連携協定

群馬大学は、DOWAホールディングス(株)と2008年12月15日、包括的連携協定を締結しました。DOWAホールディングスのスローガンは「未踏への挑戦」。製錬、環境・リサイクル、電子材料、金属加工、熱処理といった幅広い分野において資源循環型事業を展開する企業で、環境・リサイクル事業では、廃棄物処理、土壌浄化、金属リサイクルなどの分野で国内最大規模を誇ります。電子材料事業では、磁気記録用メタル粉、赤外LEDなど多くの世界トップシェアの材料を開発。熱処理事業では、2008年5月、太田市に新工場を完成。各分野で最先端に位置しています。

今回の締結は、相互の資源の有効活用と緊密な人的交流によって、大きな研究成果と地域貢献を目指すもの。環境・リサイクル分野では、従来も本学とDOWAホールディングスは共同研究を展開してきました。今後は、本学太田キャンパスにDOWAホールディングスによる表面処理技術に関する寄付講座の開設を予定しています。

さらに技術交流会など研究者の交流、教育・人材育成の推進、相互支援、研究施設・設備の相互利用を行い、幅広いテーマで共同研究を実施していきます。



右から鈴木守学長、清水聖義太田市長、吉川廣和DOWAホールディングス会長

教授が行った「数学を読む」は、毎回1冊の数学書(「ポアンカレ予想を解いた数学者」「フェルマーの最終定理」「零の発見」など)を取り上げ、難しいと思われるがちな数学を面白おかしく解説していくというもの。10代から80代まで毎回50人前後が集まる人気講座となりました。

教育学部の結城恵准教授は「多文化共生のための日本学」「多文化共生のためのアジア学」「多文化共生のためのブラジル学」といった学生を対象にした授業を開催しました。学生たちに中心市街地の存在を認知させようとの試み

の一環です。

さらに2008年度は、「街中健康づくり事業」(教育学部保健体育講座・柳川益美教授)、「異文化コミュニケーションと言語」(社会情報学部・堀正教授)、「観光UFO」(社会情報学部・寺石雅英教授)、「空中コマをつくって、自由自在に飛ばしてみよう!」(工学部「工学クラブ」)などの一般向け講義も行いました。

講義の会場としては、前橋テルサや前橋プラザ元氣21に加え、プロスパ1ハウス、広瀬川美術館なども利用されました。

講義は、年間200コマ!

2006年度は46コマ、2007年度は146コマ、2008年度には200コマと講座は充実。群馬大は、うち約4分の1に当たる約50コマを担当しました。商工会議所では、アンケート調査なども実施し、利用者の興味に沿った講座や若者向けの講座を企画。大学教員だけではなく、地元の商店主らを講師に育成するなどの試みも行っています。2009年度も200コマ以上を開催する予定です。



利用を待ち望む草津セミナーハウス

すぽっと 散策

情緒も自然もスケールも 日本一の温泉リゾート、草津

[草津セミナーハウス周辺]

JTBによる「わたしのもっとも好きな温泉地」アンケートで人気ナンバー1に君臨する草津温泉の一角に位置するのが関東甲信越地区国立大学共同利用研修施設の草津セミナーハウスです。

高原の冷涼な気候と豊かな自然環境、そして日本一の温泉とすべてがそろったエリアだけに、年間とおしてスポーツ合宿、ゼミ合宿と多くの学生、教員に利用されています。

セミナーハウスの風呂ももちろん温泉ですが、草津を訪れたからには充実度ナンバー1の温泉街へ、ぜひ足を延ばしたい。温泉街のそぞろ歩きは、えもいわれぬ魅力があります。浴衣を用意しておくのもいいかもしれません。

古来、さまざまな文人や政治家らにこよなく愛されてきただけに、歴史のある温泉街は奥が深い。「どうせ温泉街だから」という先入観をはるかに上回るクオリティの飲食店も目白押しです。湯畑を中心に四方に広がった温泉街は歩くたびに新たな発見があるはず。白旗の湯をはじめとする無料の公衆浴場は温泉情緒を味わうには最適。効能抜群のお湯が合宿などで疲れた心と体をじっくり癒やしてくれるのは必然です。

「草津温泉の歴史を勉強してみたい」と思った人には、町役場に隣接する草津町温泉資料館がオススメです。一通り見学すれば、大体の流れが理解できるでしょう。

一方、スポーツを満喫したい人にとっても最高のステージであり、夏はさまざまなスポーツ合宿の舞台となっています。冬は、やはりスキー&スノーボードです。

また、ひと足延ばして、草津白根山登山で自然に親しむのも捨て難いものです。



草津温泉湯畑



草津白根山の湯釜



志賀草津高原ルート



ワタスゲ

GUNDAI

大学遺産

Heritage

桐生近代建築の先駆者、 山田太市の功績が偲ばれる設計図面

1916(大正5)年の創立時に建てられた桐生高等染織学校(後の工学部)の設計図約100枚が、同窓記念会館に所蔵されています。同窓記念会館は、工学部本館玄関一部と講堂を1972年に移転したもので、1998年国登録有形文化財になりました。桐生を代表する近代化遺産の一つです。この設計図は、工学部校舎建築に現場監督指揮者として携わった山田太市の遺族から寄贈されたものです。

文部省から着任した山田太市^ぎは、翌13年9月から桐生高等染織学校(後の工学部)の建築に取り掛かりました。第一次世界大戦が勃発して物資の調達に苦労したものの、16年4月の入学式までには本部、講堂、紡織工場、色染工場など主要な建物を完成させています。最終的にすべて完成したのは、同年11月でした。

その後1922年、山田氏は桐生製材(株)に入社。桐生地域の多くの工場や建物の建築設計に当たっています。のこぎり屋根工場、洋風建築、レンガ建築、RC工法はじめ近代建築を象徴する桐生の建造物の多くは、山田氏が当時の技術を駆使して築き上げたものです。山田氏が関与した建物は、北川織物、有隣館煉瓦蔵、妙音寺など36件。近代化遺産の宝庫ともいえる桐生をけん引した先駆的存在が山田氏だと言えるでしょう。工学部の建築は、中でもその端緒を開いたもの。現在残る同窓記念会館は、こうした歴史的背景を知ると一層、価値あるものと言えそうです。

山田氏は1932(昭和7)年死去。2006年に「山田太市図面展」が明治館で開催されました。



山田太市の経歴

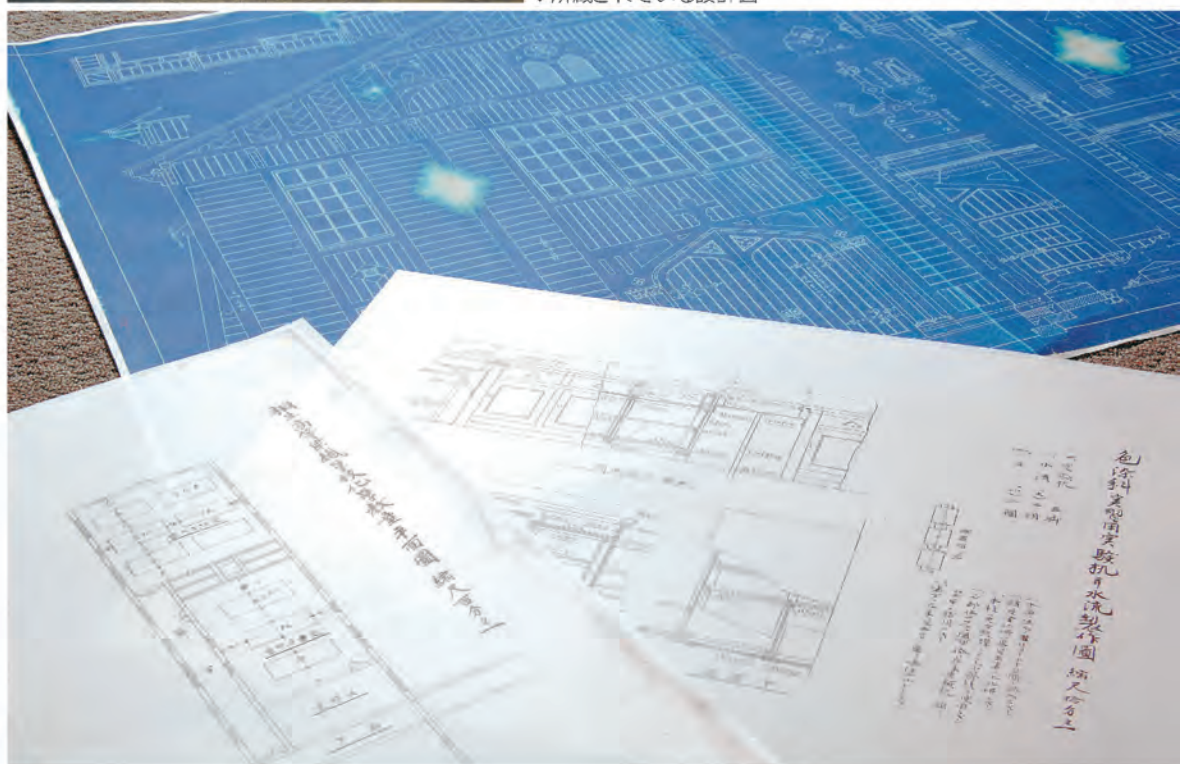
- 1878(明治11)年8月
栃木県那須郡大田原町(現栃木県大田原市)に生まれる
- 1909(明治42)年9月・31歳
文部省建築課職員となる
- 1912(大正元)年12月・34歳
第八工業高等学校(桐生高等染織学校 現群馬大学工学部)創立事務取扱本課桐生出張所勤務となる
- 1917(大正6)年4月・39歳
桐生高等染織学校職員となる
- 1918(大正7)年4月・40歳
桐生高等染織学校化学分析室新管工事設計及び監督囑託となる
- 1919(大正8)年7月・41歳
桐生高等染織学校器具設計及び政策監督囑託となる
- 1922(大正11)年2月・44歳
桐生製材株式会社に技術員として入社
- 1932(昭和7)年1月・53歳
在職中に病のため死去

(山田氏の写真と経歴提供: 桐生市教育委員会文化財保護課)

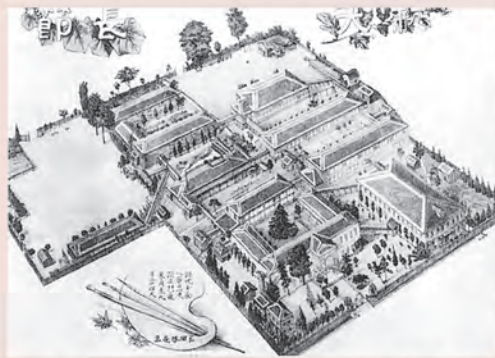


◀創立当時の工学部

▼所蔵されている設計図



師範学校から学芸学部へ



明治30年代の群馬県師範学校曲輪町校舎全景図

教育学部の起源をたどると、1873（明治6）年の教員伝習所にまでさかのぼることができます。その後、群馬県師範学校（1876年）、群馬県女子師範学校（1902年）の設置をはじめ数々の変遷を経て、戦後の群馬大学学芸学部の誕生、1966年の教育学部改称へと受け継がれていきます。今回は、70年以上に及ぶ師範教育から戦後の学芸学部のころまでを中心に振り返ってみましょう。

教育水準向上の原動力となった群馬県師範学校

明治になって学制実施が進められました。教員養成は大きな課題であり、特に教員不足は大問題でした。そのため1873年、前橋に設置されたのが、教員伝習所です。ここでは約2カ月の下等小学科伝習が実施されました。ちなみに、教員伝習所には268人が入学し、卒業できたのは101人でした。やがて熊谷県が置かれると、この伝習所は本庄に、さらに熊谷に

移転し、暢発学校と称しています。1876年には第二次群馬県が成立し、暢発学校は再び群馬・高崎に移り、さらに9月には前橋に戻って群馬県師範学校が成立しました。教育学部の草創期は、このように目まぐるしい変遷をたどりました。

群馬県師範学校は当初、在学期間は2年で、これを半年ごとに4級に分けて進級し、卒業後は附属小で授業伝習を行っていました。1880年ころ、教員数は全国的にかなり不足していたようですが、本県は学校数を上回る正規教員を有する3府7県の一つ。就学率も1881年64%、1882年76%と全国第1位となるなど、教育先駆地域へと躍進しました。

また、1881年には師範学校教則大綱が頒布され、初等科1年、中等科2年、高等科4年の新課程制度へと変更し、1886年の師範学校令に基づき、翌年には群馬県尋常師範学校と改称しています。このころ、生徒は郡長推挙による公費生が中



群馬県師範学校の正面玄関（大正初期）

心で、全員が厳しい寄宿舎生活を送りました。1898年には再び群馬県師範学校となり本科4年制となっています。

また、1902年には群馬県女子師範学校が設置されました。さらに1912年には第二師範が安中に置かれましたが、1年で廃止され、再び群馬県師範学校に併合されました。

黄金期を迎えた昭和初期

一方、大正期に入ると、1918年に農業講習科が設けられ、さらにこれが1921年には実業補習学校教員養成所へ。1925年に学制が改められると、本科第一部は5年制となり、翌1926年には専攻科も設置されるなど、教員養成機関として充実していきました。

昭和期は不況のどん底の中、

ご宿泊、ご婚礼に、ご宴会、お食事

ホテルメトロポリタン高崎
 〒370-0849 高崎市八島町222番地
 TEL.027-325-3311(代)

135の業態なショップ 高崎モントレー

高崎ターミナルビル株式会社
 群馬県高崎市八島町 222番地 TEL.027-324-0550

モントレーメルマガ 会員登録中!! 登録無料

高崎モントレーのイベントやクラブポイント情報、人気ショップの最新情報などをケータイやパソコンへいち早く配信。ショッピングがますます楽しく便利になります。

教育学部の歴史—①前編



昭和30年代の学芸学部本館

多くの優れた人材が師範学校に集まり、志望者も急増し、学力・体育はもちろん、精神修養にも力を入れた教育が行われ、中山正心校長の下、群馬師範の黄金時代を迎えました。増課科目が置かれ、学問的志向が高められたのです。

しかし、やがて戦時体制の暗い影は教育の世界にも及んでいくこととなります。1938年ころからは入学志望者も減少傾向をたどりました。

1943年には、両師範を合併して官立群馬師範学校へと替わり、さらに翌1944年には群馬県立青年学校教員養成所（前・実業補習学校教員養成所）が群馬青年師範学校へと昇格しています。このころ、生徒は軍隊や工場に動員され、女子部には学校工場が置かれていました。

2部制だった学芸学部

こうした中、終戦を迎えると、戦後の混乱のさなかに学制改革が行われ、1949年には新制の群馬大学が発足し、群馬師範・群馬青年師範学校はそのまま群馬大学の学芸学部へと発展的解消となりました。旧制群馬師範・群馬青年師範は大学の傘下に入り、1951年3月に74年の歴史を終えたのです。

学芸学部は4年課程の第1部、2年制の第2部と2部制で構成され、第1部は文理学部と教員養成学部の性格が兼ね備えられ、取得する単位によって小・中学校や高等学校の教員免許状を得ることが可能でした。今のよう

に教員養成に特化したものではありませんでした。第2部は、小・中学校教員の養成を目的としたもの。六三制施行による教職員の不足を補うために設けられたもので、1957年度の募集を最後に廃止されました。

昭和30年代に入ると県内での就職は困難となり、多くの学生が県内外の高校に就職していききました。やがて、就職状況の改善を図るために教員免許取得を前提とする学部への志向が強まっていくこととなります。

※一般教科のほかに、生徒の希望により、2・3教科選択して、その増課科目だけ深く研究する制度

MESSAGE

米国発の金融恐慌が社会・経済の先行きを不透明なものとしています。地域経済にも深刻な影響を与えているのは言うまでもありません。大学もこうした社会や経済の状況に大きく影響を受けます。厳しい時代はしばらく続くとの見方が主流を占めますが、だからこそ逆に前向きに考えてみてはいかがでしょうか。コミュニケーション能力の高い人材養成、地域の特色を生かした独自性の高い共同研究など群馬大学に集まる期待に大きく応える最大のチャンスです。そんな中、いよいよ平成21年度は重粒子線照射施設での治療が始まります。群馬大学に全国から注目が集まる1年となりそうです。

ISO14001認証取得企業
SINCE 1902

地域でもっとも信頼される企業をめざして

OA機器・ファニチャー・サプライ・印章
店舗用什器・その他

 **株式会社 春木堂**

HARUKIDO

本社/〒371-0855 前橋市問屋町1-9-7
TEL027-252-2345 (代)
FAX027-252-2344
E-mail office@harukido.co.jp 担当 桑原・中島

 予約不要の担当指導員システムでスムーズ教習

運転免許を取るなら前教で!!

取り扱い車種
大型二種・大型車・中型二種・中型車
普通二種・普通車・大型二種・普通二種

 **Mae-kyo**
親切・丁寧・優しい指導

群馬県公安委員会指定 前橋自動車教習所
群馬県前橋市関根町甲390 TEL.027-233-1155

<http://www.maebash-drivingschool.co.jp>

国道17号、
DIPS.A ディップスA
は、オンデマンド印刷ショップです。

会社案内
パンフレット
DM
メニュー
ポスター
チラシ
プログラム
チケット
展示パネル

写真集
教集・句集・詩集
同人誌
小説
連珠集
絵本
商業
自伝
カレンダー etc.

ディップス ニゴヨロはワンツーワンツー
TEL027-254-1212
FAX027-254-1227
〒371-0846 群馬県前橋市元湯社町67
<http://www.asahi-p.co.jp/dips/> E-mail sp-dips@asahi-p.co.jp
営業時間 月曜から土曜日 午前9時～午後7時30分

 **朝日印刷工業株式会社**

東和銀行の ジャンボ宝くじ付定期預金 ダブルチャンス

(ATM及びインターネットバンキングではお取り扱いいたしません。また、6月と10月は販売いたしません。)

大口定期預金(1,000万円以上)3年ものに
「サマージャンボ宝くじ」と「年末ジャンボ宝くじ」を
お付けしました。

あなたにわくわくジャンボな夢をお届けします。

👑 3億円のチャンス

大口定期預金の金額に応じて宝くじを贈呈します。
お預け入れ金額が多いほど3億円のチャンスも増えます！
※ただし、3億円は平成20年度のサマージャンボ及び年末ジャンボ1等前後賞の当せん条件です。

👑 紛失の心配がありません

宝くじは東和銀行が管理。紛失の心配がありません。

	平成21年		平成22年		平成23年		3年間合計
お預け入れ金額	サマージャンボ	年末ジャンボ	サマージャンボ	年末ジャンボ	サマージャンボ	年末ジャンボ	
1,000万円	30枚	30枚	30枚	30枚	30枚	30枚	180枚
3,000万円	90枚	90枚	90枚	90枚	90枚	90枚	540枚
5,000万円	150枚	150枚	150枚	150枚	150枚	150枚	900枚

ふれあいバンク

TOWA 東和銀行

2008年3月1日現在